

イスラエルの人々⑤

□信仰の手本（イスラエルの民が失敗したときに、モーセが主に嘆願したことば）

あなたのしもべアブラハム、イサク、イスラエルを思い起こしてください。あなたはご自分にかけて彼らに誓い、そして彼らに、『わたしはあなたがたの子孫を空の星のように増し加え、わたしが約束したこの地すべてをあなたがたの子孫に与え、彼らは永久にこれをゆずりとして受け継ぐ』と言われました。』（出 32：13）

□これまでの振り返り

1. アブラハム契約・・・神は、全人類の中から一人の人、アブラハムを召し出し、彼に3つの約束を与えた。**土地の約束、子孫の約束、祝福の約束**である。神はその約束を確かなものとして、アブラハムと契約を結ばれた。

(1) 土地の約束と子孫の約束を通してアブラハムは**復活信仰**に導かれた。

(2) 祝福の約束は、アブラハムの子孫（メシア）によって全人類に神の祝福がおよぶという約束。その祝福の中核は「復活」である。

2. アブラハム契約は、アブラハムから、子のイサク、孫のヤコブへと継承された。ヤコブの子孫であるイスラエルの人々は、エジプトで増えて一つの民族としての規模にまでなったが、エジプト王に仕える奴隷の民となってしまった。神はアブラハム契約に基づき、モーセを遣わして人々をエジプトから救出した。

3. イスラエルの人々① 紅海を渡る

(1) エジプト王ファラオと彼の家臣たちはイスラエルを解放したことを後悔し、戦車隊を召集して追跡した。

(2) 紅海に面した海辺に宿営していたイスラエルの人々に、突如エジプト軍が迫り来た。このとき主が海の水を分けて道を開いたので、イスラエルの人々は、神を信頼する信仰によって、右と左に水の壁を見ながら、紅海を渡った。

4. イスラエルの人々② 天から降るパン、マナにより養われる → 律法授与の準備

(1) **マラ**・・・紅海を渡った後、いったん北上して、シュルの荒野へ。三日間、荒野を歩いたが、水が見つからなかった。やっと水を見つけたが、その水は苦くて飲めなかった。それで、その場所を「マラ（苦い）」と呼んだ。民はモーセに「われわれは何を飲んだらよいのか」と不平を言った。モーセが主に叫ぶと、主は彼に一本の木を示した。彼がそれを水の中に投げ込むと、水は甘くなった。

(2) **エリム**・・・マラからシナイ半島西岸を南下して、エリムへ。そこには、十二の水の泉と七十本のなつめ椰子の木があった。民はその水のほとりで宿営した。

(3) **シンの荒野**・・・エリムを出発して、シナイ半島中央部に位置するシンの荒野へ入った。エジプトを出てから、ちょうど1か月。手持ちの食糧が尽きて、民はモーセに不平を言った。主はモーセに告げられた。「わたしはイスラエルの子ら

の不平を聞いた。彼らに告げよ。『あなたがたは夕暮れには肉を食べ、朝にはパンで満ち足りる。こうしてあなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であることを知る。』

- ① その日の夕方、うずらが飛んで来て宿営をおおった。
- ② 朝になると、宿営の周り一面に露が降りた。その一面の露が消えると、地面の上には薄く細かいものがあつた。民は、それを「マナ」と名づけた。それはコエンドロの種のように、白く、その味は蜜を入れた薄焼きパンのようであつた。
- ③ 主は、六日間マナを降らせ、六日目には二日分のマナを与えて**七日目を休ませる、という生活ルールを**、イスラエルの民に体験させた。これは、安息日の規定をもつ律法を授与するための準備でもある。

5. イスラエルの人々③ 水の供給と襲撃者との戦い

- (1) **レフィディム**・・・主の命により、シンの荒野を旅立ち、旅を続けてレフィディムに宿営した。しかし、そこには民の飲み水がなかつた。民はモーセと争い、「われわれに飲む水を与えよ」と言った。主はモーセに言われた。「民の前を通り、イスラエルの長老たちを何人か連れて、あなたがナイル川を打ったあの杖を手に取り、そして行け。さあ、わたしはそこ、ホレブの岩の上で、あなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。岩から水が出て、民はそれを飲む。」モーセはその通りにした。このホレブの岩は、第二位格の神、受肉前のイエスであつた。以降、この岩が民についてきて、荒野で宿営する民に飲み水を供給した。
- (2) アマレク人がイスラエルの民を襲撃してきた。襲撃者との戦いを通して主は3つのことをイスラエルに教えた。①主はイスラエルと共におられる、②戦いは人の力によらず、神の助けによる、③モーセは神が選んだ指導者である

6. イスラエルの人々④ シナイ山での**律法授与**（**シナイ契約**、またはモーセの律法）

シナイの荒野・・・レフィディムを旅立って、第三の月の第一日にシナイの荒野に入った。第三日に主は、**シナイ山**に降りて来られて主の栄光を民に見せ、安息日の規定を含む十戒を民に直接聞かせた。このとき、民は神への正しい恐れを示した。それ以後は、モーセを通して主は語られた。主は、モーセを通して十戒以外のもろもろの律法の定めを民に聞かせた。モーセにそれらを書き、**第四日**の朝、あらためてそれを民の前で読み、最後に血の契約を締結した。そして、主はシナイ山の中腹に長老 70 人を招いて、契約の食事までしてくださった。（エジプトを出てから**50日目**）

□イスラエルの人々の信仰⑤ モーセ 40 日間山に、ふもとでは金の子牛事件（出 24 章 12 節～32 章 14 節）

1. **（山 4 回目、中腹にて）**主はモーセに言われた。「山のわたしのところに上り、そこにとどまれ。わたしはあなたに石の板を授ける。それは、彼らを教えるために、わた

しが書き記したおしえと命令である。」そこで、モーセとその従者ヨシュアは立ち上がり、モーセは神の山に登った。彼は長老たちに言った。「私たちがあなたがたのところに戻って来るまで、私たちのために、ここにとどまりなさい。見よ、アロンとフルがあなたがたと一緒にいる。訴え事がある者はだれでも彼らのところに行きなさい。」モーセが山に登ると、雲が山をおおった。(出24:12~15)

- 律法授与の契約をした日、山の中腹で契約の食事が行われた。
 - 食事の後、モーセは従者ヨシュアと共に山の頂上をめざして登っていった。
 - 長老たちは、モーセとヨシュアが戻って来るまで、山の中腹で待つように指示された。その間、モーセの代理として民の訴え事に対応するのは、アロンとフルである。
2. モーセは雲の中に入って行き、六日間、山の中で待った。七日目に雲の中から主がモーセを呼ばれたので、彼は頂上に向かった。中腹からの登り始めから起算すると、頂上で主から指示などを受けて山を下りてくるまで、40日間であった(出24:16~18)
- 申9:9 私が石の板、すなわち、主があなたがたと結んだ契約の板を受け取るために山に登ったとき、私は四十日四十夜、山にとどまり、パンも食わず水も飲まなかった。
3. 山の頂上で主がモーセに語られたことは2つ、そして石の板2枚が授けられた
- (1) 幕屋の製作について・・・詳細な指示を受けた(出25:1~31:11)
 - (2) 安息日の規定について・・・目的説明と違反者への処罰命令を受けた。
 - その目的は、イスラエルを諸国民から聖別するため(出31:12~13)
 - この規定を破るなら、そのイスラエル人は死刑(出31:14~17)
 - (3) 十戒が記された二枚の石の板、「さとしの板」が授けられた(出31:18)
 - 申9:10~11 主は、神の指で書き記された石の板二枚を私に授けてくださった。その上には、あの集まりの日に、主が山で火の中からあなたがたに告げられたことばが、すべてそのまま書かれていた。こうして四十日四十夜の終わりに、主はその二枚の石の板、すなわち契約の板を私に授けてくださった。
4. 一方、ふもとでは、金の子牛事件(出32:1~6)
- (1) 民の要望・・・民はモーセが山から一向に下りて来ようとしないのを見て、アロンのもとに集まり、彼に言った。「さあ、われわれに先立って行く神々を、われわれのために造ってほしい。われわれをエジプトの地から導き上った、あのモーセという者がどうなったのか、分からないから。」(出32:1)
 - この民の要求を受け入れてしまい、アロンとフル、そして70人の長老たちは、モーセが戻るまで山の中腹で待てという指示を守らず、山を下りたようである。
 - (2) 金の準備・・・それでアロンは彼らに言った。「あなたがたの妻や、息子、娘た

- ちの耳にある金の耳輪を外して、私のところに持って来なさい。」民はみな、その耳にある金の耳輪を外して、アロンのところに持って来た。(出 32 : 2~3)
- (3) **子牛像の鑄造**・・・彼はそれを彼らの手から受け取ると、のみで鑄型を造り、それを鑄物の子牛にした。彼らは言った。「イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から導き上った、あなたの神々だ。」(出 32 : 4)
- (4) **祭壇を築く**・・・アロンはこれを見て、その前に祭壇を築いた。そして、アロンは呼びかけて言った。「明日は主への祭りである。」(出 32 : 5)
- (5) **戯れる民**・・・彼らは翌朝早く全焼のささげ物を献げ、交わりのいけにえを供えた。そして民は、座っては食べたり飲んだりし、立っては戯れた。(出 32 : 6)
- (6) 偶像を造りそれを拝むのは、シナイ契約(モーセの律法)を破ったことになる。
5. 山の頂上では、主がモーセに事件を知らせた(出 32 : 7~14)
- (1) **事件の伝達**・・・主はモーセに言われた。「さあ、下りて行け。あなたがエジプトの地から連れ上ったあなたの民は、墮落してしまった。彼らは早くも、わたしが命じた道から外れてしまった。彼らは自分たちのために鑄物の子牛を造り、それを伏し拝み、それにいけにえを献げ、『イスラエルよ、これがあなたをエジプトの地から導き上った、あなたの神々だ』と言っている。」(出 32 : 7~8)
- (2) **主の怒り**・・・主はまた、モーセに言われた。「わたしはこの民を見た。これは実に、うなじを固くする民だ。今は、わたしに任せよ。わたしの怒りが彼らに向かって燃え上がり、わたしが彼らを絶ち滅ぼすためだ。しかし、わたしはあなたを大いなる国民とする。」(出 32 : 9~10)
- (3) **モーセによる嘆願**・・・しかしモーセは、自分の神、主に嘆願して言った。「主よ。あなたが偉大な力と力強い御手をもって、エジプトの地から導き出されたご自分の民に向かって、どうして御怒りを燃やされるのですか。どうしてエジプト人に、『神は、彼らを山地で殺し、地の面から絶ち滅ぼすために、悪意をもって彼らを連れ出したのだ』と言わせてよいのでしょうか。どうか、あなたの燃える怒りを収め、ご自身の民へのわざわざいを思い直してください。**あなたのしもべアブラハム、イサク、イスラエルを思い起こしてください。あなたはご自分にかけて彼らに誓い、そして彼らに、『わたしはあなたがたの子孫を空の星のように増し加え、わたしが約束したこの地すべてをあなたがたの子孫に与え、彼らは永久にこれをゆずりとして受け継ぐ』と言われました。』**(出 32 : 11~13)
- (4) **主の応答**・・・すると主は、その民に下すと言ったわざわざいを思い直された。(出 32 : 14)

□シナイ契約を破っても、アブラハム契約は続いています。神の約束を信じる信仰、神は約束したことを必ず果たしてくださるお方(真実なお方)であると信じる信仰によって、イスラエル民族は滅びることを免れました。今の私たちにはどういう手本となるでしょう。